

CJM REPORTER

カナディアン ジャパニーズ ミニストリー (CJM) 2007年秋号

タノ ディビット (キャンプ委員長)

今年も7月29日から8月4日にかけてアルバータ、シリバンレイクでサニーサイドキャンプが行われました。デイビット・キングさんとロバート・長谷川さんのリードのもと、神様の恵みに満ちた1週間を過ごしました。日本語グループから2人の方が救われ、その他

サニーサイドキャンプ



イアン (左)、ジェイソン、アイリーン、ニコール

多くの方も再び信仰に立ち返る恵みにあずかりました。今年初めて、CJM総会がこのキャンプ中に時と場所を同じくして行われました。CJM委員の先生方をこのキャンプにお迎えし、そのうち何人かの方々は1週間のキャンプにご家族と一緒に参加していただき、おおきな励みとなりました。

今年のキャンプは一言でいうと、他のどの年にも増して一致が与えられ、「平和と成熟」といった言葉がびったりくるような場となりました。英語部にはジェイソン&アイリーン・マタご夫妻をお招きし、ジェイソンの心に迫ってくるようなメッセージとアイリーンの天使のような歌声に、大いに祝福されました。日本語部では3人の先生方(吉田エドワード師・市川ベン師、福迫 徹也師)が、交代でメッセージをしていただき、祝福されるとともにチャレンジされる内容のものでした。日本からの参加者のうち何名かはもうすでに来年のキャンプにも来る計画を立てているそうです!

サニーサイドキャンプ委員を代表して、このキャンプに、多くの方が惜しみなくサポートして下さっていますことを心から感謝します。神様がこれからもこのキャンプを祝福して下さることを確信し、また神様のこのキャンプに対する偉大な計画に期待します。*



北東日系クリスチャン修養会 報告 村井優人牧師

今年で第21回になる北東日系クリスチャン修養会が、今年も8月4~6日に開催されました。会場は前と同じクリーフヒルズ・コミュニティのキャンプ場。オンタリオ州トロントの西に車で約1時間のところでした。

さて、お伝えしたい第一点ですが、それは昨年講師・鍵和田哲男先生が再奉仕して下さったことです。先生は、南カリフォルニアのサンフェルナンド・ホーリネス教会日語部牧師。伝道者としても牧会者としても鋭い感覚の持ち主です。今回は特に牧会者でありつつ一信徒の目線で詩篇講解をしていただき、その結果でしよう、クリスチャン・ノンクリスチャンを問わず、多くの方が先生の確信を通して深く御霊のお取り扱いを受け、罪を悟され、悔い改めの恵みに導かれました。



良かった第二の点は、ワーホリの若者たちが8名、フルタイム参加したことです。ジーザスファミリーのミュージック・ミニストリーとあいまった彼らの若

さ・活気によって、参加者は大いに励まされました。カンファランス直後、彼らの中の2名がイエスさまを救い主としてお受けしました。

第三の特記すべき点ですが、それは申すまでもなく、委員会メンバーの背後の働きです。各自実によく奉仕して下さいました。この修養会が実現したのも、主にある彼らの献身・犠牲的働き・一致あってこそです。私は新議長として、責任を遂行する委員たちの実行力・細心の注意に、ただただ驚くばかりでした。

最後ですが、この働きを覚え、さらにさらにお祈りくださいませ。そうして、さらに多くの方々に届く働きとなるよう、願う次第です。*





秋山賢牧師 眞理夫人
創平君（8）有紗ちゃん（6）

私達は、2005年12月に申請した永住ビザを9月17日に取得することができました。感謝!! 書類を提出直後、弁護士を依頼すべ

きだったかと一瞬思

ったりもしましたが、カナダに住み続けたいために永住ビザを申請するのではなく、神様の働きを進めるうえで必要ならば与えられる、必要でないならば神様のほかの方法がある、ことを思われ、最高の弁護士（神様）を信頼して待ち続けた1年と8か月でした。その間ずっと神様を信頼することによって得られる平安がありました。私達は、レスブリッジ宣教を始めた時から「この地で実を結び、その実が残るために、必要な物はすべて与えられる」との約束に立ってきました。そしてそれをこれまでも経験し続けてきました。今回の永住ビザ取得も、みことばの約束を体験し、最近、自分達の足りなさや弱さが目につくようになってきた私達に、神様は確かに私達をこの地に召しておられるということを確認させる出来事となりました。永住ビザ取得の為に助けてくださったCJMとブライアクレスト神学校の先生方に、そしてずっとこのことのために祈り続けて下さった方々に心から感謝します。

その理由は。。。

去年の夏、幼馴染の友人と久々にコーヒーを飲んで話す機会がありました。もう何年も会っておらずただ共通の知り合いの葬儀で2回ほど顔を会わせただけでした。話しているうちにこう彼が切り出してきました。私がクリスチャンとなった時、私は彼にクリスチャンになり、自分の中の何かがかかわったと、言ったそうです。彼はその時一時的なことで直に忘れてしまうだろうと思いました。しかし、風の便りで私が聖書学校を卒業し、フルタイムの宣教師として働いていたことを聞きました。「なぜ自分の信仰にのっとなって、その進む道や仕事さえも決めてしまえるのか？わたしは努力して毎週教会に行ってみた。けれどもそれは私にとって何にもならなかった。」私は、こう言いました。「私はあなたと何のかわりもないただの人に過ぎません。でも、私のしたことがあります。それは、罪が許されるように祈り、イエス様を救い主として受け入れるお祈りをしたことです。罪の許しを受け取らなければ人生のなかでした間違えのすべてをその身に背負って生きているのです。イエス様は私達のその罪を背負って十字架にかかって死んでくださいました。それは、私たちと神様との間を隔てる壁となっている私達の罪を取り除くためでした。愛なる神様は私達を深く深く愛し、そのひとり子イエス様を私達の罪の身代わりとしたのです。神様は聖なるかたで正しいお方です。私達は罪のあるままで神様の御前にすることはできません。でも、イエス様が十字架にかかってその罪の身代わりとなってくださったので、罪を許された者は神様の御前に出ることができるのです。私達が人生のなかでした間違えのすべてを神様の前に心から告白する時、神様が私達を清めてくれます。それは自分自身ではできないことです。福音とは“良い知らせ”という意味です。一体どんなよい知らせですか？それはイエス様が2000年前にこの地上に来て、私達の罪のために十字架にかかって死んでくださったということなのです。」友人はこう聞いてきました。「ただそれだけで本当に罪がゆるされるのですか？」（次号につづく）*

7月15日には南出すみえさん（82歳）の洗礼式が執り行われました。礼拝に出席されるようになってちょうど1年。秋からは「聖書を読む会」にも出席され御言葉がしっかり南出さんにとどまるようになりました。お嬢さんご夫妻（ありのぶさんご夫妻）の長い間の祈りが応えられ、洗礼へと導かれました。

夏はフィッシング大会、青年キャンプ、野外礼拝などの教会プログラム、そしてサニーサイドキャンプなど

あつという間に過ぎていきました。秋からはジョイキッズ、プレイズナイトや聖書を読む会などが再開されます。

私達は、永住ビザが取れましたので、宣教活動5年目になる来年に日本への宣教報告を考えています。特に経済的にサポートして



南出すみえさん

教会への宣教報告とさらなるサポートのお願い、またレスブリッジで救われクリスチャンとなって帰国した青年達を訪ね励ますための帰国と考えています。ベストの時期にベストな方法で宣教報告の帰国ができるようお祈りください。*

献金

秋山牧師ミニストリーのサポート、また一般会計への献金は、下記にお送り下さい。

Brenda Ohara-Peters
669 Hillman Cres.,
Mississauga, ON L4Y 2Y1

Tel.: 905-949-4182
Email: bjobjo@aol.com



金城ノリ
CJMディレクター

私達が5、6年まえコロナを訪れた時、日本からの戦後の移民である竜せつこさんにお会いしました。その頃日の出ホームに住み、木下さん夫妻やホシザキさん、ウィニー中野さんやシャープルズさんとそこで知り合われました。これらの方々の愛と証のうちに、竜さんの心はしだいに神様に向かって開かれていき、イエス様を心に迎え入れる準備がもうすでになされていきました。その後、長女の近くに住むことを目的にモミジニアセンターへと移った竜さんは、ウェスリーチャペルの教会員として忠実な歩みを続けています。このインタビューは2007年の9月に行われたものです。

質問—もしよろしければ、結婚やご家族のことについて話していただけますか？

竜さん—22歳の時に、かなり年上の主人と結婚しました。私の家族は金銭的に豊かでしたので、それを狙っての結婚だったのかもしれませんが。彼の収入は微々たるものでしたので、わたしは働きに出なければなりません。その後、家族で店をはじめたのですが、止むを得ない事情により、主人1人を残し私は子ども達を連れて東京へと出ました。

質問—カナダに移民したきっかけは何ですか？

竜さん—4人の娘の末娘が結婚してケローナに住むようになり、何度かケローナを訪れました。この頃私は関節炎と神経痛に悩んでいましたが、何故かオカナガンに来るとその痛みが病みました。そんなことが何度か続き、ついに移民に申請してみることにしました。

質問—クリスチャンになる前、何か宗教や信仰といったものはありましたか？

竜さん—辛い結婚生活を過ごしたので、いろいろな種類の本を読み、いろいろな宗教に興味を持ちました。立正佼成会もその1つでした。そして、私はさむらいの家に生まれましたので、仏教色のたいへん濃い中で育ちました。ですから、ある日本からの牧師先生があなたは今カナダに住んでいるのですからクリスチャンとなりなさいと進めてきたときにも、自分の家の伝統の1つである仏教をみすみす捨てることは出来ませんでした。

質問—イエス様を救い主として受け入れたときのことを話してください。

竜さん—日の出ホームに移ったとき、クリスチャンの友人がイエスさまのことについてやさしく忍耐強い方だと教えてくれました。シャープルズさんが一緒に座り、あまり言葉の出来ないわたしに対しても忍耐強く熱心に話しかけてくださいました。サニーサイドキャンプに行く途中の車の中で、イエス様が私の罪のために十字架にかかって死んだという福音を聞きました。そして、吉田先生夫妻が福音携えて家に来てくださったとき、聖霊さまの臨在の中で、涙がとめどなく流れ落ちました。今日まで、私がその日にイエス様に従う決心をしたことを後悔したことはありません。しかし、4人の娘と5人の孫はまだイエス様を心にお迎えしていませんので、その家族のために毎日祈っています。*



毎月モミジセンターで行われるシニアの集会



竜せつこさん

中原明美牧師

お祈りの支えとお交わりを感謝いたします。NWEFCでは、強い夏の日差しの中で、公私共に大忙しの賑やかな季節を、主に守られて過ごしました。

【感謝】

- ◆ 教会の主任牧師として、これまで英語部の臨時牧師をしてくださっていたストローム先生が就任なさいました。2年間の期間限定ですが、これまで牧師の招聘の課題に小休止が訪れました。
- ◆ 夏の教会コンサートを加藤紘子さんをゲストにお迎えして行いました。
- ◆ 語学の学びでカナダに短期滞在している、日本人クリスチャンや青年たちに出会えたこと。この夏、彼らもVBSや、教会キャンプ・ピクニックに参加協力してくれました。
- ◆ アルファー・コースから引き続き持たれている聖書の学び（マルコを読む）が、祝福されている。3名の求道者の方が続いて集っています。
- ◆ 毎週送信している説教のアウトライン、祈りのテーマを添付した「祈りのシート」を通して、様々な地域におかれているクリスチャン、交わりの友との交流が継続していること。
- ◆ ESLのクラスが再開され、普段は教会にいらっしゃらない地域の方々が集われるようになりました。このために尊い奉仕をしてくださるスタッフが与えられました。

【祈りの課題】

- ◆ 教会全体の霊的成熟と、世代交代の準備のために。



- ◆ 教会で育ってきた青年たちの信仰の決心、受洗、そして献身のために。
- ◆ メンバーシップの獲得の準備をしている方の学びのために。
- ◆ 地域に住む日系人との出会い、コンタクトのために。
- ◆ (ESL, バザー, コンサートなどを通して積極的な関わりを地域の方々持てるように。)
- ◆ 求道者の信仰の決断のために。
- ◆ 教会員の家族の救いのために。*

カルガリー日系福音教会

谷口洋一牧師

私たちの教会は今年、日系人伝道40周年を迎えます。初代芥川先生から始まった福音宣教は、その後、幾人かの牧師たちに引き継がれていき、そのなかで、1986年自分たちの教会堂が与えられました。CJGCが与えられた大きな恵みは、人々が夫婦単位で救われていったことだと思います。今、教会の柱になってくださっている夫婦単位のクリスチャンたちが、賛美を中心とした交わりを保ち、教会のなかで協力しあいながら、子育てをしていきました。そこで育った子供たちがまたクリスチャンホームを築き、親になり、今、会堂は赤ちゃんや小さな子供たちで溢れています。その3世の子供たちをキリストにあって、育て上げていくことが、これからの一つの大きな使命です。

イスラエルの民は約束の地をめざして、40年間荒野の旅をしました。CJGCのこれまでの歩みも、雲の柱、火の柱となって導いてくださった主の導きによる歩みでした。この40年の先輩たちの歩みを土台として、これからの新しい歩みは、私たちにとってヨルダン川を渡って約束の地に入る、ヨシュアの戦いの時代だと思います。家族を守り、主にあって、子供たちを育て上げていくと同時に、取るべき新しい魂を勝ち取り、地境を大胆に広げていく、そのような歩みがでありたいと望んでいます。

“あなたがたのひとりだけで1000人を追うことができる。あなたがたの神、主ご自身が、あなた方に約束したとおり、あなたがたのために戦われるからである。あなたがたは、十分気をつけて、あなたがたの神、主を愛しなさい。”（ヨシュア記23章10、11節）



各地から40周年記念祭に出席された方々。
小泉さん（左）、小森さん、
池ノ上さん、アイタさん

ウィニペグ日系アライアンス教会

ギースブレクト正美

この夏は私たちウイニペグ日系アライアンス教会にとって変化の夏でした。5月に佐伯牧師が教会を辞任され創立41年目にして初めて無牧教会となりました。

15人に満たないメンバーの約半数がシニアの私たちグループにとっては大きなショックでした。しかし、教会として今までどおり礼拝を守っていこうという事になり新しく足立雅子、ギースブレクト コーリー、正美の3人がリーダーシップチームとして選ばれました。



毎年恒例のピクニックを楽しむ
シニアの皆さん

今まで牧師夫妻にまかせっきりだった事ばかりなので初めは皆戸惑いましたが礼拝の説教者から日曜学校の教師、婦人会のリーダーなどなど必要な働き人をすべての面において与えてくださった神様に感謝する数ヶ月となりました。また8月には教会ピクニックを行い普段教会には来ていない人たちも参加してくれ楽しい1日を過ごすことが出来ました。そしてごく少数ではありますがこの夏を通して礼拝にも新しい人たちが来ています。

この様にこの小さなグループを引き続き守り活用して下さっている神様に感謝しています。なお引き続きウイニペグで生活している佐伯家のためどうぞお祈りください。



夏に行われた教会のピクニック。
参加者全員楽しい一時を過ごしました。

トロント日系福音教会

戒崎レイ牧師

私達の教会は、2005年の「40日の目的」以来現在に至るまで神様の祝福の中に浸されています。その祝福の1つは、教会堂建築の開始です。6月にブルドーザーがその荒地となっていた



建築予定地に入るのを皮切りに建築工事が始まりました。多くのボランティアに支えられる形のプロジェクト

ですが、その中枢となって働いてくださっているデイビット・ノーブルさんとロジャー・ヒルさんに心から感謝します。工事のための技術者が各地からボランティアに来てくださると同時に、教会の私達の多くも簡単なトレーニングを受けた後、工事中安全靴を購入し、ヘルメットをかぶって作業に加わりました。暑い日差しの中、材木を担いだりシャベルでの穴掘り、釘うち等と作業が行われる中、神様は私達の安全を守ってくださいました。どうか引き続き、この建築工事が神様の御手に守られ、安全であり、必要な技術者が与えられ、また教会堂とともに私たち自身も神様とお互いへの愛において建てあげられていきますようお願いください。この教会堂建築の大きな裏方となっているのがフードサービスです。教会の女性達が交代で昼食や夕食を用意し、工事現場に届け、土曜や祭日にはバーベキューを行っています。また、各地から来る技術者にホストホームとして家を開放して

くださっている方々がいることもこの建築の支えです。真実なる神さまの助けにより、必要がまかなわれここまで来ました。私たちは今この信仰の歩みの真っ最中です。

教会でのもう1つの大きな出来事は、今年の夏よりパートタイムのユース・パスターが与えられたことです。ケビン・上田師はこの教会で育ち、奉仕のための学びも終えています。その妻のミッシェルも教会員で、去年は2人でユースリーダーとして奉仕してくださいました。このケビン今年よりユース・パスターとして迎えることができるのは私達教会の大きな喜びです。

そしてもう1つの出来事は、教会の礼拝場所の変更です。それまで使用してきた日系文化会館の2階部分改装工事が9月から着工されることが決定され、それに伴い私達はやむなく移動することになりました。現在はノースヨークの220ダンカンミルズ、オフィス街の一階部分に位置するチャイニーズ・ペンテコスタル・チャーチをお借りして礼拝を続けています。5年間の間、日系文化会館が、友好的に私達に会館を使わせてくださったことを感謝します。*



ケビンとミッシェルの結婚式
2007年9月23日

エドモントン日系キリスト教会

中野百合牧師

ユニークな ティラナスハウス ミニストリー

はじめてエドモントン日系キリスト教会を訪れる人は、“ティラナスハウス”という言葉に耳にし、なんだろう？と思います。それは、もう10年以上前から、教会のミニストリーの一つとして使用されている家の名前です。家の所有者は教会員の親戚の方です。

多くの人達は、何か恐竜に関係しているのですか？と質問しますが、そうではありません。名前の由来は、新約聖書の使徒行伝19章9(b)節から来ています。使徒パウロが弟子を連れて毎日“ツラノ(ティラナス)の講堂”で神の言葉を論じていました。パウロは、エペソの町に滞在して、“ツラノの講堂”で説教もしました。そういう訳で、ティラナスハウスの名前は、“ツラノの講堂”に由来し、同様にティラナスハウスでも神の言葉が語られ、神の言葉を聞き、神の言葉を受け入れる場所となる様にと願いをこめて名前がつけられました。

ティラナスハウスでは、毎水曜日の夜、聖書の学び会がもたれ、クリチャンでない人たちも集まり、心のこもった温かい日本食でお腹を満たすばかりでなく、御言葉による霊的な成長の場となっています。現在まで、エドモントン教会は、会堂が無く、他の教会を借りて礼拝を続けていますので、日曜日以外の活動の場所として、この家が使われています。また多くの方々が、疲れた心を癒すため、乾いた心を潤すため、

人達との心の交わりを求めて、この家にやって来ました。長い間の、ティラナスハウスのミニストリーを通して、多くの方々の心が変えられました。日本からの学生ばかりでなく、韓国やエドモントン以外のカナダ各地からの学生もここに訪れました。時には、短期旅行者の宿として、色々なイベントのための宿泊所としても使われ、同時に教会のオフィスでもありました。いつも、このハウスは魂の回復のために話し合う場所として、一緒に心をこめて祈り合う場所として、また生き方が変えられる場所として活発に利用され続けました。これらのことは、私が過去10年間この家に住んで、実際に経験したからこそ言えるのです。エドモントン教会の牧師としての働きから、神様が導かれる次の働きに移りますが、ティラナスハウスミニストリーの経験は、とても懐かしく、忘れられない事でしょう。神様を必要としている多くの方々に、神の言葉を伝える場所として、ティラナスハウスがこれからも続けて用いられる様に、また新しい牧師が招聘されます様にどうぞお祈り下さい。*

